

## 1. 法人の概要

名称 学校法人 大阪城北学園（昭和59年8月29日法人設立）

代表者 理事長 山口 義人

住所 吹田市藤が丘町9番23号

電話 06-6385-4844

FAX 06-6385-4850

設置する学校

住所 吹田市藤が丘町9番23号

名称 藤ヶ丘幼稚園

役員 理事 7名 監事 2名 評議員 15名

理事会 3回開催 評議員会 2回開催

職員 12名

## 2. 事業の概要

（ 藤ヶ丘幼稚園 ）

《教育方針》

キリスト教保育、自由保育の2本の柱を土台とし、自律心を育てることを目標にしている

《教育内容》

神の愛と人の愛を深く知り、体験でき、さらに、さまざまな機会を通して自律心を育てる。きびしい現実の社会生活の中で、確たる人生の土台の形成を目指している。

年齢	認可 クラス数	予定 クラス数	1号(予定)		2号・3号(予定)				利用定員 合計	利用者数 合計
			利用定員数	教育標準 利用者数	利用定員数	保育標準 利用者数	短時間 利用者数	保育認定 利用者計		
5歳児	1	1		10						10
4歳児	1	1		12						12
3歳児	1	1		20						20
満3歳児				4						4
合計	3	3		46						46

《保育時間》

月・火・木・金曜日 午前9時～午後2時

水曜日 午前9時～午前11時30分

日曜日 午前9時20分～午前10時20分

土曜日 休園

《諸費用》

項目	金額	
入園受入準備金	60,000 円	入園手続き時
保育充実費（月額）	満3歳児 4,300 円	
	3歳児 2,300 円	
	4歳児 2,300 円	
	5歳児 2,300 円	
入園用品代	16,300 円	

※その他選択制パン給食のパン代は希望者より実費徴収あり。

《預り保育内容及び費用》

【時間枠と利用料金】

早朝保育	8時30分～9時	100 円
通常保育	14時～15時	200 円
	14時～16時30分	500 円
	16時30分～17時30分	30分毎／100 円
午前保育	11時30分～15時	600 円
	11時30分～16時30分	900 円
	16時30分～17時30分	30分毎／100 円

※午後3時以降の預かり保育にはおやつを提供（料金含む）。

【時間枠と利用料金（長期休暇あずかり）】

長期休暇 特別預かり保育	9時～11時30分	500 円
	9時～14時	1000 円
	9時～15時	1200 円
	9時～16時30分	1500 円
	16時30分～17時30分	30分毎／150 円

※午後3時以降の預かり保育にはおやつを提供（料金含む）。

#### 《行事実施状況》

自らを表現し、やってみようとする意欲、自主性・自信を育てるため、クリスマス、子どもの日、さんびかを歌い礼拝、遠足、運動会、生活発表会、プール、移動動物園など

#### 《施設関係》

園地面積 811.6㎡ 運動場面積 413.0㎡  
園舎

#### 《設備関係》

#### 《計画内容》

新年早々に能登半島で発生した地震により、継続的な揺れと判然としない被害状況の中、断水が続く多くの方が避難所生活を余儀なくされている。一刻も早く、平穏な日常に戻れることを心から願いたい。また、当園でも様々な自然災害に対応できるよう日々避難訓練の実施と教職員の意識化をはかっていきたい。

さて、少子化の進行は留まることがなく、出生数は昨年を下回る状況にあるが、一方で特別支援児の増加傾向は続いており、多様な状況に対応できるよう人員の確保および施設等の充実にも注力していきたい。

教職員採用も厳しい状況が続いており、早期離職者を出さないよう職場の雰囲気向上に努めながら、教職員組織を安定させることも傾注している。新卒者採用に向けての情報発信にも力を入れていきたい。

また、私立学校法の改正により年内に寄附行為の変更認可申請を行う必要があり、役員・評議員の人選を慎重に進めながら対応していきたい。

園児募集については、保護者ニーズへの対応が重要度を増していることから、預かり時間、教育内容、納付金等について検討し、また、ホームページや SNS などを通じた情報発信も慎重に進めている。特に、未就園児クラスの充実及び満3歳児入園者の獲得が一層重要となっており、当園も積極的に取り組むこととする。そのために必要な園外園地などの確保にも努力していきたい。

事業活動収支予算書の教育活動収支では、教育活動収入計が 56,688 千円、教育活動支出計が 54,870 千円となり、教育活動収支差額 1,818 千円のプラスとなる。また、経常収支差額（基本金組入前収支差額）は 1,818 千円プラスの経営状況となる。資金繰りは問題ない。

引き続き積極的な園児募集を行い、経営の安定を目指して研究を続け、着実な運営を行うこととする。

#### 《収支予算》

別紙のとおり

## 4. 財務状況

## 学校法人 大阪城北学園

## 資金収支計算書

(単位:円)

科 目	2023年度
学生生徒等納付金収入	1,629,650
手数料収入	780,000
寄付金収入	2,907,500
補助金収入	50,920,902
資産売却収入	0
付随事業・収益事業収入	3,094,340
受取利息・配当金収入	808
雑収入	1,952,850
借入金等収入	0
前受金収入	420,000
その他の収入	10,522,258
資金収入調整勘定	△ 5,268,404
前年度繰越支払資金	38,593,814
収入の部合計	105,553,718
人件費支出	37,433,928
教育研究経費支出	3,513,203
管理経費支出	8,664,376
借入金等利息支出	0
借入金等返済支出	0
施設関係支出	0
設備関係支出	985,631
資産運用支出	837,561
その他の支出	10,894,210
資金支出調整勘定	△ 3,690,918
次年度繰越支払資金	46,915,727
支出の部合計	105,553,718

## 事業活動収支計算書

(単位:円)

科 目	2023年度
学生生徒等納付金	1,629,650
手数料	780,000
寄付金	2,907,500
経常費等補助金	50,920,902
付随事業収入	3,094,340
雑収入	866,850
教育活動収入計	60,199,242
人件費	38,271,489
教育研究経費	5,799,183
管理経費	8,805,498
徴収不能額等	0
教育活動支出計	52,876,170
教育活動収支差額	7,323,072
受取利息・配当金	808
その他の教育活動外収入	0
教育外活動収入計	808
借入金等利息	0
その他の教育活動外支出	0
教育外活動支出計	0
教育活動外収支差額	808
経常収支差額	7,323,880
資産売却差額	0
その他の特別収入	1,086,000
特別収入計	1,086,000
資産処分差額	3,000
その他の特別支出	0
特別支出計	3,000
特別収支差額	1,083,000
基本金組入前当年度収支差額	8,406,880
基本金組入額合計	△ 886,381
当年度収支差額	7,520,499
前年度繰越収支差額	3,694,847
基本金取崩	0
翌年度繰越収支差額	11,215,346

(参考)

事業活動収入計	61,286,050
事業活動支出計	52,879,170

## 貸借対照表

(単位:円)

資 産 の 部	
科 目	2023年度
固定資産	19,840,752
流動資産	51,629,531
資産の部合計	71,470,283
負 債 の 部	
科 目	2023年度
固定負債	3,834,606
流動負債	4,397,045
負債の部合計	8,231,651
純 資 産 の 部	
科 目	2023年度
基本金	52,023,286
繰越収支差額	11,215,346
純資産の部合計	63,238,632
負債及び純資産の部合計	71,470,283

## 財産目録

(単位:円)

1. 資産総額	71,470,283
I 固定資産	19,840,752
II 流動資産	51,629,531
2. 負債総額	8,231,651
I 固定負債	3,834,606
II 流動負債	4,397,045
3. 正味財産	63,238,632

# 監 査 報 告 書

2024年 5月 22日

学校法人 大阪城北学園  
理事会・評議員会 御中

学校法人 大阪城北学園

監 事

山根良寛



監 事

坂本由美子



私たちは、学校法人大阪城北学園の監事として、私立学校法第37条第3項及び寄附行為第16条に基づいて同学園の2023年度（2023年4月1日から2024年3月31日まで）における業務及び財産の状況について、理事会その他重要会議に出席するほか、理事長から学校運営の報告を聴取し、重要書類を閲覧し、会計監査人から報告説明を受け、事業報告書及び計算書類等を調査いたしました。

監査の結果、私たちは、同学園の業務及び財産の状況に関して不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められませんでした。

また、財務に関する計算書類は学校法人会計基準に準拠しており、学校法人大阪城北学園の2024年3月31日現在の財務状態及び同日をもって終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めます。

(注) 監事山根良寛及び監事坂本由美子とも私立学校法第38条第5項に定める外部監事であります。

## 1. 本園の教育目標

## ※キリスト教精神に基づく保育

子どもは親や保育者に愛され、大切にされることによって自分がかけがえのない存在であることを認識します。神があるがままの私たちを受け入れてくださるよう、保育の中でも、子ども一人一人を愛し、尊重し、育んでいきます。

## ※自由保育

自由保育とは、子どもたちが自らやってみようとする心情や意欲を大切にしながら、遊びを通して発達に必要なことを身につけていくことができるように援助し、幼児の主体性を育んでいく保育です。教師は、子どもが何をしたいのか、そこで何が育っているのか、今、何が必要かをその都度見極め、少しずつ積み上げていけるよう育ちの過程を大切にしながら保育します。子どもたちが自由に遊びこめる時間と空間を確保した自由活動を中心にするに加え、みんなで集まってひとつの活動をする設定の時間も取り入れながら様々な経験ができるように配慮しています。

## 2. 本年度 重点的に取り組む目標・計画

☆本園の寄付行為にあるように、神に仕える精神を教職員の共通理解として具現化できるように、毎朝の祈祷会や日曜日の礼拝出席などを通して、神様と出会う機会を作る。

☆キリスト教精神に基づく保育、自由保育という教育理念を実現するために、カリキュラムの検討と作成を行う。毎月、月案と週案を教師全員で検討、確認し、園児の今の姿を十分に把握しながら更に保育の質を高めていく。

☆保護者の意見、要望、ニーズを大切にしながら、共働き化など時代状況に合わせた対応がなされている園であるよう、今後の保育形態（長期休暇の預かり保育や給食の充実）について検討・実施する。

☆減少傾向にある園児獲得の為、ホームページの充実だけでなく、自園の子どもの姿を通し園の特色や保育内容が伝わるよう、園内外の方々に今まで以上に発信する。

☆近年発生回数が多い災害や防犯対策の強化として、園児の安全を第一に作成されたマニュアルを元に、様々な想定される訓練を実践していく。又、災害時において避難後の安全確保なども視野に入れ備品の準備や使用方法の確認などを行っていく。

☆AEDなどを使った職員の救命救急の訓練を行う。

☆新型コロナウイルス感染対策として、常に情報を獲得しながら、可能な限り保育を停滞することがないように、保育内容や計画を立て、安心して園生活を過ごせるように配慮する。また、第5類に分類されたため、緩和化した保育の充実に努める。

### 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
<p>幼稚園の寄付行為及び保育目標の共通理解をする。</p> <p>本園の保育目標を実現するためのカリキュラムの検討</p>	<p>教師会では新型コロナウイルス感染対策に留意しながらも、再度当園の教育理念および保育目標において研修会や教師会で話し合いを行い、共通理解を深めることが出来た。</p> <p>年間、月案、週案を徹底的に検討し、計画を立て、毎月の教師会において相互に確認し合い、新型コロナウイルス感染予防対策を含め、振り返りを行っている。</p> <p>又、昨年に引き続き、有識者の指導の元、自分たちの保育を客観的に見直す機会として公開保育を行った。</p>
<p>幼稚園の状況を踏まえて中・長期的ビジョンと計画を図る。</p>	<p>今まで理事会や学校関係者評価委員会などで、幼稚園に求められている公的使命、地域社会への貢献として、話し合い検討されてきた長期休暇での預かり保育であるが、2023年度夏季長期休暇より開始することが出来、2024年度は更なる充実として開催日数を増やし、就労者に対して、勤務証明書の提出を条件とし17時30分まで時間を拡大することが出来た。未就園児ひよこ組週5日クラスの保護者より就労の為、預かり保育を利用したいとの声があり、就労支援として満3歳児に満たない未就園児に対してどのようにしていくか今後検討していく必要がある。</p> <p>開設以来、幼稚園では保護者の手作りお弁当を大切に取組んできたが、近年、様々な状況に置かれている保護者の負担軽減の為、給食についてこれまで検討してきた。お弁当を希望する方も多いので、選択制のパン給食（週2回）とし、2023年5月より取組みを始めたが、現在利用者が少ない状況にある。栄養面を考慮しながらも、子どもたちが食べやすいメニューの検討とパン以外のお弁当給食など保護者のニーズに合わせてさらに検討していく必要がある。</p>

	<p>保護者のニーズや園児確保・人材確保の観点から車での登園・出勤を希望する方が多いことを踏まえ、駐車場の確保が検討課題となっていたが、大阪城北教会のご厚意で借地として隣接の土地を駐車場及び遊び場として使用できる目途が立ってきた。整備や使用方法・安全対策などがこれからの検討課題となる。</p>
園児獲得	<p>ネット社会となっている現状を踏まえ、新たなホームページを作成した。今まで個人情報保護法の観点で子どもの顔を見せることが出来なかったが、アンケート調査を行い保護者の承諾を得て、子どもたちの活動の様子や表情を見ることが出来るホームページを作成した。又、幼稚園での園児の様子をホームページで知らせるだけでなく、幼稚園の存在を知らないご家庭に当園を周知していただく為、親子教室や未就園児クラスの案内を地域にポスティングした。</p>
安全管理	<p>危機管理をより一層徹底し、地震・自然災害等のような事態が生じても、対応できるようにAEDの設置、救命救急講習会の実施など日頃の訓練を重ねている。</p> <p>又、設置されているセキュリティシステムの作動確認を行うとともに、防犯システムの強化・安全対策として防犯カメラの設置・東側避難出口及び園庭フェンスの修繕を行う。</p> <p>又、災害に備えて非常用電源の購入、及び使用方法と備蓄（非常食）の確認を行った。</p> <p>これからの検討課題として非常時、全園児・全教師に状況を速やかに知らせる為、一斉通達できる方法の検討をしていく必要がある。</p>
保護者のニーズの把握に務め、要望に適切に対応する。	<p>保護者会を中心に機会ある毎に話し合い、意見を聞く。出された意見に対して必要なことは園の考え方を示し、改善すべきことについては改善するように努める。</p>



<p>新型コロナウイルス対応</p>	<p>コロナ対応が緩和される中でも園児の検温を毎日行い、玩具や遊具など子どもたちが触れるものの消毒を徹底した。又、お弁当は密にならないようにテーブルに人数制限をするとともにアクリル板を設置するなど感染対策を行った。(1月よりアクリル板は廃止)</p> <p>教師は園児・保護者に対してマスク着用を自主判断とする中、マスクを着用し教師自身が感染しないように努めた。コロナウイルスが完全に消滅することは考えられず、感染対策を行いながら保育が停滞しないように行事や活動内容をすべて見直し形態や規模を変更しながらも、可能な限り保育を進めていくことが必要である。</p> <p>又、保護者に対して、常に情報発信を行い、理解と協力をお願いしていく必要がある。</p>
--------------------	---

#### 4. 幼稚園評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

2023年度より子ども子育て支援新制度へ移行し、新たな職員を迎えることが出来、改めて全教職員が本園の設立目的・理念についての共通理解を持つことができるよう努めている。教職員それぞれが与えられた使命を自覚し、互いにモチベーションを高め、子どもたちに仕える心を持ち、共通理解を深めている。それぞれがキリスト教の精神を実践して共同体意識を確立することが出来ている。又、外部の方を招き、公開保育を行うことが出来たことは、準備をしていく過程で自分たちの保育を見直し、考える良い機会となった。このような機会は継続していくことでさらに自分たちや園の保育を見直していくことが出来る機会となる。より良き人材を確保することが困難な状況が続く今、確保した人材を大切に育てることを考え、園として重点的に取り組んでいく必要があると考える。

又、今年度より幼稚園・小学校連携として年長児小学校訪問及び小学校教諭・幼稚園教諭懇談会を開催し、小学校の現状や課題を知るとともに幼稚園での役割を改めて認識することが出来た。小学校訪問は子どもたちにとって有意義な活動であり、小学校との引継ぎや懇談会が今後重要となってくるので、継続して行っていきたいと考える。

園児減少による財政難が心配され新制度へ移行したが、それに安心するのではなく、常により良い保育を行い、園児を獲得していくことができるよう、改善できる部分は改善していく必要がある。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
園児募集	<p>少子化時代の中園児募集には大きな努力を要する。本園が存続していくためには、日常の保育のより一層の充実に努め、保護者の理解を得ることが最善の道であり、保護者のニーズに応えるためのさらなる工夫と努力をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 預かり保育充実（早朝・長時間・長期休暇）の為、より良き人材を確保する。</li> <li>・ お弁当の良さを大切にしながらも、保護者負担の軽減として開始した選択制パン給食の充実及びパン給食以外の食事の提供を検討し保護者の負担軽減となるよう努めていく。</li> <li>・ 保護者の信頼を獲得し、安心して送り出してくれる園となるため、保育が充実したものとなるよう努めるとともに保護者へのサポートが出来る体制を強化していく。</li> <li>・ 園児獲得時期が低年齢化している現在、未就園児（ひよこ組）及び親子さくらんぼ教室を充実させ園児獲得へとつなげていけるよう努力する。</li> </ul>
安全管理	<p>危機管理をより一層徹底し、地震・自然災害等のような事態が生じても、対応できるように日頃の訓練をさらに重ね、協議、検討する。セキュリティ・システム（防犯・防火）の設置、防犯システムの強化は行っているが、安全対策として出来ることを常に検討していく。</p> <p>先が見えない新型コロナウイルス感染症対策として、常に情報を収集し、保護者に協力を得ながら子どもたち・教師の健康を守る。</p> <p>近年、職場において心の問題を抱える事例が増えてきていることを踏まえ、職員の心のケアも重要課題としいく。</p>
子育て支援	<p>親子教室を開催し、親子で遊べる場を提供すると共に、子育てから生じる悩みや苦悩を分かち合えるように、保護者との会話を大切に相談を受け付ける体制を整える。</p> <p>そのためには未就園児クラスの体制を強化</p>

	<p>する必要があるため、今後、教師の配置や保育内容についても研修・検討を続ける。</p> <p>未就園児や長期休暇を含む預かり保育の充実の為にさらなる人材確保と準備を進めていく必要がある。</p>
園に対する保護者のニーズと満足度の把握	<p>子育て中の保護者が必要としているニーズを様々な方法で把握し、現代社会において求められている幼稚園の使命と役割を理解し、奉仕していく精神で、ビジョンを検討する。</p>
より良い人材確保	<p>様々な角度から求人募集を行うが、人材が集まらないことを受け、雇用の弊害となっている日曜勤務に関して検討していく必要がある。また、密に大学と連携を取り、より良き人材を派遣してもらえるように信頼関係を築いていく必要がある。</p> <p>又、採用が難しいことを受け、非常勤なども含め、今いる人材の育成にも力を入れていくことが重要となってくる。</p>

## 6. 幼稚園関係者の評価

<p>藤ヶ丘幼稚園の教育理念や保育内容については、特に指摘すべき事項はなく妥当であると認められている。外部有識者の指導の元、公開保育が継続して行われていることは評価できることであり、自分たちの保育を客観的に見直し、常により良い保育を目指していくことが大切である。又、小学校と連携を図ることは子どもたちや保護者の入学への不安を軽減するとともに、子どもたちの成長を幼児期という点で見るとはならず、つながりを持って見守ることが大切だと考える。</p> <p>コロナ対応が緩和されている現在においても感染は拡大している状況を考えて十分な安全対策は必要であるが、保育を停滞させず充実したものとなるよう、これまでと同様保護者に理解と協力を求めつつ努めてほしい。</p> <p>預かり保育や選択制パン給食の充実、駐車場の確保などこれまでの懸案事項が停滞することなく前に進んでいることは評価して良いことだと思う。保護者にとって信頼できる幼稚園となることが一番大切であり、その為の努力はこれからも必要であると思う。</p> <p>又、幼稚園への就職希望の学生が減っている中で、より良き保育を行うため人材確保は必須である。働く教師の雇用条件が少しでも良くなるように様々な検討が必要となってくるのではないかと。そして、人材確保が難しい状況であるからこそ、獲得した人材を当園の保育理念にあった教員となるよう育成していくための組織強化も行なっていくべきである。</p>
---

## 7. 学校関係者委員会名簿

朝川 誠 (理事)	上島成也 (評議員)	岡山 佐江 (卒園児)
三宅 千恵子 (園児関係者)	東島 美穂 (地域住民)	

## 8. 財務状況

公認会計士、監査により適正に運営されていると認められている。

## 9. 公開保育

日 時：2023年11月20日 (月)

実地場所：藤ヶ丘幼稚園 ひまわり組 (5歳児)

外部有識者：広木克行 (ひろきかつゆき) 氏 (神戸大学名誉教授)

テーマ：「子どもの想像力・発想力を育み、友だちとそのイメージを共有し表現する」

目的： ・ 「創造力・想像力」 (イメージする力) と表現力 (語り合う力／リズム表現) を育む

・ 活動を通して互いの発想力に触れ「話を聞く力」「自分の意思を伝える力」を育む

当日のねらい： ・ 楽器遊びを通してそれぞれがリズムを感じ表現することを楽しむ。

・ これまでの取り組みの中で知ったリズムを基に、自分たちで課題曲のリズムの構成を考える。

・ グループで話し合う中で自分の意見を伝え、友だちの意見を聞き、それぞれの相違を知ると共に相手の意見も受け入れ合いながら同じ目的に向かって取り組む。

活動： ・ チームごとに教師の提示する楽器ごとのリズムで演奏する。

・ グループで話し合い、どの楽器がどのリズム形態をするのか、また鳴ら仕方を考える。

・ それぞれのチームが発表し、お互いに感想を伝え合う。